



本ばこ

ほん

— 新刊教材・図書紹介 —

しん かん きょうざい と しょしょうかい

上質の「読み」素材集

『中上級学習者向け日本語教材 日本文化を読む』

ちゅうじょうきゅうがくしゅうしゃむ にほんごきょうざい にほんぶんかよ

編著者：公益財団法人 京都日本語教育センター
 出版社：アルク

URL: <http://www.alc.co.jp/> 発行年月：2012年10月
 ISBN: 978-4757422315 判型・頁数：B5判 112頁+CD2枚 定価：2,520円(税込み)



▽「読解」から「読書」へ

この教材は、以前このコーナーで取り上げた『上級学習者向け日本語教材 日本文化を読む』¹⁾の姉妹編で、中上級学習者のために編纂されました。

「中上級」と謳っているだけに、1課あたりの文章の長さが前作より短く(1000~2000字程度)、内容もより身近で、文章構造もやさしくなっています。

本書では、前作同様、語学的理解よりも、作品内容の「読み」を通じて、学習者に作品から導き出されることなどを考えさせることをねらっているようです。

よしもと ばなな、村上春樹といった人気作家、また、大江健三郎、川端康成といったノーベル賞作家の小説やエッセイをはじめ、ノンフィクション作家の沢木耕太郎、脚本家の倉本總や向田邦子、そして民族学者の梅棹忠夫や医学者の川島隆太など、時代を超えて、多彩な分野からの文章が集められています。

収録されている文章は、だいたい、文学的文章というジャンルでくることができると思います。そこからは、質の高い素材を学習者に提供し、学習者は文章を味わいながら、日本語を「読む」力を磨いていくというねらいが見えてきます。

日本人の行動・価値観を垣間見せるエピソードを取り上げていること、そして、余韻を味わい、行間を読む訓練もふくまれていることから考えると、「日本文化を読む」というのは適切なタイトルだと思われまます。

▽本書の構成

本書は、20課で構成されていて、そのうち2課分は古典(竹取物語・枕草子)の文章が収録されています。課の順番は難易度の順ではないので、どこからでも始めることができます。

できます。

前作に倣い、本文はたて書きで印刷され、本文の下の欄には、語彙・表現、内容に関する問い、まとめの問題が載っています(別冊解答付き)。本文の最後には、出典と著者紹介も掲載され、本文の読み上げCDと語彙リスト(英語・中国語・韓国語・ベトナム語訳付き)も付いています。

本書は、基本的な日本語構造を学習し、読解力の基礎を身につけた学習者が、上質の文章に接してゆく際の手引きとして、編纂されたということです。前作の上級編への橋渡しとしても活用できると思われます。

¹⁾バックナンバー 第63号 (http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/bookshelf/pdf/nkt63_p11_13.pdf) 3ページ目に収められています。

20	枕草子	清少納言	92
19	蓬萊の玉の枝	阿辻哲次	90
18	「春の息吹」	向田邦子	86
17	字のないは好き	川端康成	80
16	雨傘	小松左京	76
15	さかきと地団をながめて	阿刀田高	72
14	三十秒と三分	倉本聰	66
13	新社会人劇場	大江健三郎	62
12	吟味された言葉	村上春樹	58
11	天井裏		54
10	東京スカイツリーの秘密	瀬井宏臣	48
9	わざわざ書く	宮沢章夫	42
8	隣人訴訟事件	後藤昭	38
7	大根を半分	沢木耕太郎	32
6	脳のはたらきを目で見てみよう	川島隆太	26
5	フック	梅棹忠夫	24
4	シンプル	山本昌代	20
3	やっぱり敬語が必要なわけ	橋本治	16
2	お母さん	よしもとばなな	12
1	中身当てクイズ	佐藤雅彦	8